

平成12年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

2001・3

小矢部市教育委員会

平成12年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

2001・3

小矢部市教育委員会

序

小矢部市は富山県の西端に位置し、面積134km²、人口約35,000人。三方を丘陵に囲まれ、東は広大な庄川扇状地に続く平野部が開けています。市名の由来となった小矢部川は丘陵沿いに蛇行しながら流れ、市域を丘陵と平野部に二分し、平野の大部分は水田地帯で占められています。

小矢部市では昭和54年度から59年度まで6カ年をかけて市内の埋蔵文化財包蔵地の分布調査を実施し、また平成4年度には富山県教育委員会の埋蔵文化財包蔵地地図の作成に伴い分布状況の見直しを行い、さらに新しく発見されたものについては逐次追加を行い、現在200カ所の埋蔵文化財包蔵地が知られています。こうした周知の埋蔵文化財包蔵地内における民間の各種開発に対応するため平成4年からは国庫補助を受けて市内遺跡発掘調査等事業を実施しております。本年度は13件の調査を実施いたしましたが、その結果、後谷地区ではこれまで知られていなかった奈良時代及び弥生時代終末期の遺跡の存在が確認されました。

本書は本年度の調査の概要を報告するものです。調査につきましては開発行為者及び土地所有者・地元の方々にご協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

平成13年3月

小矢部市教育委員会

例　　言

- 1 本書は富山県小矢部市で平成12年度に国庫補助事業として実施した、発掘調査の概要を報告するものである。
- 2 発掘調査は国庫補助50%、県費25%、市費25%の費用負担割合で実施した。
- 3 調査は桜町遺跡（第11調査区）を神保考造（富山県埋蔵文化財センター調査課係長）、島田修一（同主任）・大野淳也（小矢部市教育委員会文化課上事）が担当し、その他を高木場万里（同）が担当した。
- 4 現地調査は平成12年4月21日から同12月22日まで及び平成13年3月12日から23日まで実施し、整理作業は主に平成12年12月25日から翌年3月31日まで行った。
- 5 本書の編集・執筆は大野、高木場が担当し、執筆分担は文末に記した。
- 6 遺物の実測は床平慎介、福沢佳典、本田亮久、阪 英子（以上富山大学人文学部学生）、上田 寿美子、石黒淑元、田畠郁子、西島美代子が行った。
- 7 遺物及び図面、写真等の資料は小矢部市教育委員会が一括して保管している。

目　　次

序

I 平成12年度の事業概要	1
市内遺跡発掘調査等一覧	3
市内遺跡発掘調査等位置図	4
II 試掘調査の概要	
1 桜町遺跡（第11調査区）	5
2 桜町遺跡（桜町前地区）	9
3 後谷条里遺跡	12
4 北反戻遺跡	15
参考文献	19
報告書抄録	

挿　図　目　次

図1 調査位置図	5
図2 調査区設定図	6
図3 面調査区構造概略図	7
図4 面調査区構造検出状況（西から）	7
図5 出土遺物実測図	8
図6 断面1～3断面図	8
図7 調査位置図	9
図8 調査区設定図	9
図9 A区上層断面図（南壁）	10
図10 A区全景（SD01）	10
図11 A区構造平面図	10
図12 出土遺物実測図	11
図13 調査位置図	12
図14 4トレンチ土層断面図（北壁）	13
図15 調査区設定図	13
図16 出土遺物実測図	14
図17 調査位置図	15
図18 調査区設定図	16
図19 SD11（西から）	17
図20 SD11遺物出土状況（西から）	17
図21 出土遺物実測図	18

I 平成12年度の事業概要

1 はじめに

平成12年度小矢部市内で実施した発掘調査は14件、その内訳は8号バイパス建設に伴う桜町遺跡の本調査及び試掘調査1件、桜町遺跡の全体像把握のための確認調査1件、個人住宅建設・駐車場・資材置場等の造成に伴う試掘調査9件、立会調査3件である。このほかに農業振興地域除外申請、農地転用、建築確認申請や電話等の問い合わせによる現地確認が20件あまりにのぼる。

小矢部市では平成4年度から市内遺跡発掘調査等事業として市内の埋蔵文化財包蔵地内における開発事業に先立ち、国庫補助を受けて試掘調査等を実施している。本年度は上記14件のうち桜町遺跡の確認調査を含む試掘調査10件、立会調査3件の13件がこれに該当する。調査対象面積は28,108.31m²であった。調査の原因となった開発行為別に見た内訳は住宅等の建設に伴うもの4件、駐車場・資材置場等の造成に伴うもの4件、進入路の建設に伴うもの1件、山七砂採取1件、分譲住宅地造成1件、公園等整備1件、重要遺跡の確認調査1件である。また原因となった事業者別では個人4件、民間事業者6件、法人1件、国・地方公共団体2件である。

小矢部市内における試掘調査をはじめとする発掘調査の件数は、かつては年間30件近くを数えたが、ここ数年来は10件前後で推移している。調査の原因は個人の住宅等の建設がもっとも多く、大規模開発等は減ってきている。また調査対象地域の把握は、農業振興地域除外申請、農地転用の許可申請時によるものがほとんどであるが、最近の傾向としては事前に開発予定地が埋蔵文化財包蔵地含まれるかどうかの問い合わせによるものが増えてきている。今年度の13件のうちそうした照会によるものが8件を占めており、開発行為者側の開発に先立つ埋蔵文化財の有無の確認が定着してきている。

2 試掘調査

今年度対象とした13件のうち10件は試掘調査を実施した。比較的まとまった資料の得られた桜町遺跡（第11調査区）、桜町遺跡（西中野字桜町前地区）、後谷条里遺跡（2か所）、北反畠遺跡の5件についてはページを改めて後述するが、ここでは他の5件について簡単に概要を述べておく。

北一北遺跡 資材置場造成に先立ち調査を実施した。南側に隣接する水田からは昭和56年度分布調査において多数の須恵器、土師器、土師質土器等を採集しており、奈良時代から中世にかけての遺跡として知られる。2m×40mのトレンチ3カ所、それをつなぐトレンチ1本、2m×31mのトレンチを3カ所、それをつなぐトレンチ1本を設定し、重機により掘削したが遺構、遺物とも確認できなかった。

平山・藤森遺跡 資材置場造成に先立ち調査を実施した。昭和63年に東側の隣接地を調査しており、中世の集落跡を確認している。1m×2mのテストピットを28カ所設定し人力により掘削した。遺構は柱穴2基を確認したが、時期は不明である。遺物は上飾器、珠洲が出土した。

埴生竹亭窯跡 歴史国道エントランス広場の整備に先立ち調査を実施した。1m×10mのトレンチを10カ所設定し重機により掘削した。竹亭窯に関する遺構、遺物は確認できず、江戸時代後半～明治時代頃に建てられ、昭和50年頃に取り壊された住宅、蔵などの礎石と越前甕、近世陶磁器を確認した。

桜町遺跡（雀谷地区） 分譲住宅地造成に先立ち調査を実施した。平成11年に実施した隣接地の調査から遺構、遺物が確認できる可能性は少ないと想われたが、開発面積が大きいこと、桜町遺跡と重なって桜町条里遺跡の範囲でもあることから調査を実施した。1m×10mを基本としたトレンチを21カ所設定し、重機により掘削した。遺構は確認できず、遺物は須恵器の甕体部破片2点となり摩耗した十師器片が出土した。

埴生南遺跡 個人住宅の建設に伴い調査を実施した。平成4年度には東側で、平成5年度には西側でそれぞれ試掘調査を実施しており、弥生時代中期・奈良時代前半・12世紀後半から13世紀初めの中世条里関連の遺構遺物等が確認されている。調査区全体に1m×2mのテストピットを22カ所設定し、遺物等の密集する地点においては、適宜試掘坑を広げた。遺物は珠洲、須恵器、十師器等が出土した。

3 立会調査 立会調査は蓑輪遺跡・桜町遺跡（地山地区）・浅地神明社遺跡の3カ所において実施した。

蓑輪遺跡 資材置場の造成に伴うものである。耕作下に黒褐色シルト層が広がる。炭化物を多く含んでおり、遺物・遺構が存在する可能性もあったが、今回は確認できなかった。さらに下層には淡黄色砂質シルト、表土下1mでは拳大の礎を含む暗褐色砂層が堆積する。

桜町遺跡（地山地区） 山上砂の採取に伴うもので採取地は遺跡範囲外であるが搬出のために拡幅する道路が一部遺跡にかかるため立会調査とし、搬出路側溝の掘削等に立ち会った。表土下は黄褐色の山砂が堆積し、遺構・遺物とも確認できなかった。

浅地神明社遺跡 平成10年度に約100m西に位置するズンデ山遺跡内で、携帯電話基地局建設に伴う試掘調査で占墳の周溝らしき遺構が確認されている。今回は神社境内へ自動車を乗り入れるための進入路の建設に伴い立ち会い調査とした。表土下はすぐ地山と思われる明黄色粘土層であり、遺構・遺物とも確認できなかった。

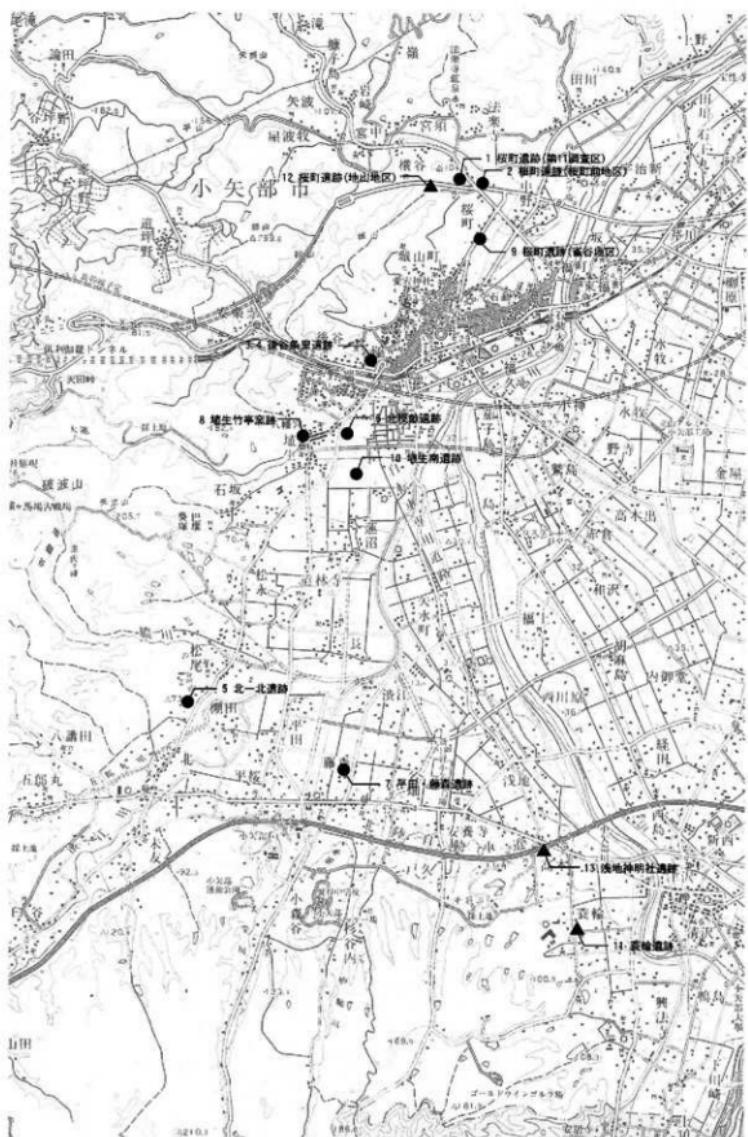
(高木場)

市内遺跡発掘調査等一覧

No.	遺跡名	所在地	調査対象面積 (掘削面積)	調査種別	調査期間	調査結果	調査原因
1	桜町遺跡 (第11調査区)	桜町字舟岡	1,473m ² (309m ²)	試掘調査	12.5.8 ~9.22	中世柱穴、溝、壁穴状遺構確認 縄文土器、土師器、中世土師器、珠洲出土	遺跡全体像把握 のための確認調査
2	桜町遺跡 (桜町前地区)	西中野 字桜町前 1212-18	402.38m ² (31.48m ²)	試掘調査	12.4.21 ~5.11	弥生終末期・ビット確認 弥生土器、須恵器、土師器、珠洲出土	個人住宅等建設
3	後谷条里遺跡	後谷字老番割 831外	260m ² (33.5m ²)	試掘調査	12.5.12 ~5.26	弥生終末期川原藤認 弥生土器、須恵器、土師器出土	個人住宅等建設
4	後谷条里遺跡	後谷字老番割 813外	406.01m ² (40m ²)	試掘調査	12.5.29 ~5.30	遺構確認されず 弥生土器、須恵器、土師器出土	個人住宅等建設
5	北一北遺跡	北一字見條 2607-1外	6,217m ² (502m ²)	試掘調査	12.7.6 ~7.14	遺構確認されず 遺物出土せず	資材置場造成
6	北反戻遺跡	埴生309-1外	2,641m ² (342m ²)	試掘調査	12.7.14 ~8.31	古墳群、平安津、古墳土坑柱穴確認 須恵器、土師器、内裏土師器出土	駐車場造成
7	平田・藤森 遺跡	藤森5081	1,041m ² (72m ²)	試掘調査	12.10.23 ~11.8	柱穴確認 土師器、珠洲出土	資材置場造成
8	埴生竹亭窯跡	埴生 2296-1外	3,281m ² (100m ²)	試掘調査	12.11.17 ~12.6	近世～近代窯石確認 越前、近世陶器器出土	歴史国道エントランス広場整備
9	桜町遺跡 (雀谷地区)	桜町字雀谷 967外	4,510.92m ² (188m ²)	試掘調査	12.12.11 ~12.22	遺構確認されず 須恵器出土	分譲住宅地造成
10	埴生南遺跡	埴生227-3外	497m ²	試掘調査	12.3.14 ~3.23	川跡、瑠璃器 須恵器、土師器、珠洲出土	個人住宅等建設
11	蓑輪遺跡	蓑輪551	378m ²	立会調査	12.6.2	遺構確認されず 遺物出土せず	資材置場造成
12	桜町遺跡 (地山地区)	桜町字地山 127外	6,621m ²	立会調査	12.8.30 ~9.14	遺構確認されず 遺物出土せず	川上砂採取
13	浅地神明社 遺跡	浅地字中坪 7442-1	380m ²	立会調査	13.3.16	遺構確認されず 遺物出土せず	神社進入路建設

市内遺跡発掘調査等位置図(1:50,000)

●試掘調査 ▲立会調査



II 試掘調査の概要

1 桜町遺跡（第11調査区）

1 はじめに

桜町遺跡舟岡地区では、国道8号バイパス建設に係る発掘調査において、その路線内で縄文時代の集落が確認されている。第11調査区は、その集落範囲の広がりを確認することを目的として、バイパス用地北側の民有地部分に設定した調査区であり、平成11年度より調査を行っている。

平成11年度のトレーニング及び一部深掘りによる試掘調査の結果、本調査区の地下には調査区西側の大部分を占める谷状地形と東側の微高地状の地形が確認され、谷状地形はその成因が縄文時代晩期以降の土石流によるものであること、東側の微高地状地形がバイパス路線内の調査で確認された縄文時代中期末～後期初頭の堅穴住居群の立地する微高地からの続きである可能性が高いことが推察された。今年度の調査では前年度調査において明確にし得なかった上記2つの異なる地形のつながり、ならびに微高地状地形上における縄文時代中期の遺構の有無、谷状地形の西側の状況の把握という3点を明らかにすることを目的とした。



図1 調査位置図
(1:5,000)

2 調査の概要

調査区東側の微高地状の地形が想定される部分では面的な調査を、西側及び北側の谷状地形想定範囲では断削調査を実施した。面調査は、重機（バックホウ）による耕土剥ぎの後、人力により中世以降の堆積土を掘削しその下での遺構検出を行った。断削調査は重機により、地表下2m付近まで掘削した。発掘面積は面調査約211m²、断削調査は3本で約98m²である。

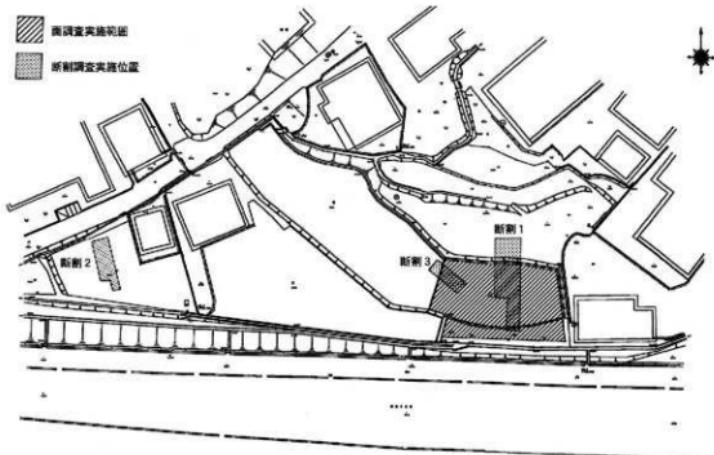


図2 調査区設定図(1:800)

面調査区 中世以降の堆積土を掘り下げたところ、昨年度のトレンチ調査の結果から想定したものにはほぼ沿った形で黄褐色砂質シルトをベースとする微高地を確認し、その上面で穴19・溝4・竪穴状土坑1を検出した。検出した遺構の大半は検出時の遺物出土状況やそれを基にした埋土色によるグルーピングの結果、中世以降のものと判断され、縄文時代の遺構確認を目的とする調査の対象から外れるため掘削は行わなかった。しかし、微高地の中でも最も高い場所に位置するSK01(竪穴状土坑)・05・06・07、SD24については、縄文時代の遺構の可能性があると考えられたため、部分的な掘削を行った。その結果SK01については、上層で中世土師器が、下層では古墳時代の土師器、SD24では古墳時代や平安時代の土師器と考えられる土器片等が出土し、縄文期の遺構である可能性は否定された。また、遺物の出土が無かったSK05・06・07（埋土色からはほぼ同時期の遺構と考えられる）については、SK07の底部から柱根または礎板の残欠かと考えられる木片が出土したため、放射性炭素年代測定を行い、その結果 990 ± 40 BPという年代値を得た。

なお、SK01(下層)とSD24についても遺構内から木片が出土したため同時に年代測定を行い、その結果SK01(下層)では 1190 ± 40 BP、SD24では 900 ± 40 BPといういずれも出土遺物よりも新しい年代値が得られた。掘削範囲が狭いため詳細なことはわからないが、古い土器が後世に混入したものである可能性もあり、現在のところは最も新しい年代を遺構の時期とするのが妥当と考えられる。

図3 面調査区
遺構概略図
(1:200)

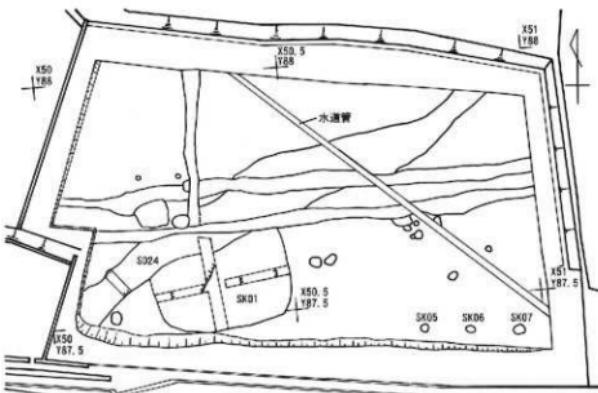


図4 面調査区遺構
検出状況
(西から)



断面調査区

面調査を実施した微高地上面において前記のような結果となり、この遺構確認面より下位に縄文時代の遺構面が存在する可能性も考えられたため、微高地部分を一部含むかたちで南北に断面1を設定し掘削した。しかし、微高地部分下層では遺物・遺構とともに検出されず、遺構面の存在も看取されなかった。また、北側部分では縄文晚期土器を含む堆積物がこの微高地を削り込んでいる状況が確認された。

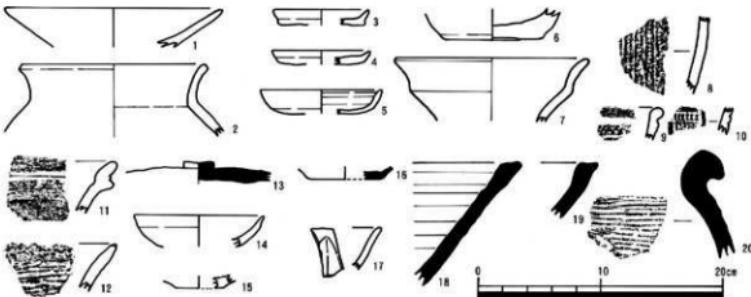
断面2は、調査区西端の部分における地下の状況を確認するために設定した。掘削の結果、地表下約1.9mで縄文後・晚期の土器を含む砂礫層を確認し、谷状地形の堆積状況がこの地点まで続いているものと考えられた。

断面3は、微高地と谷状地形の関係を東西方向で確認することを目的に設定した。掘削の結果、ここでも断面1と同様に微高地を削るかたちで谷状地形が存在することが確認された。

出土遺物 部分的な調査のため遺物の出土量は少ないが、縄文時代(図5-8～12)・古墳時代(1・2・7)・平安時代(6・13・16)・中世(14・15・17～20)のものがある。

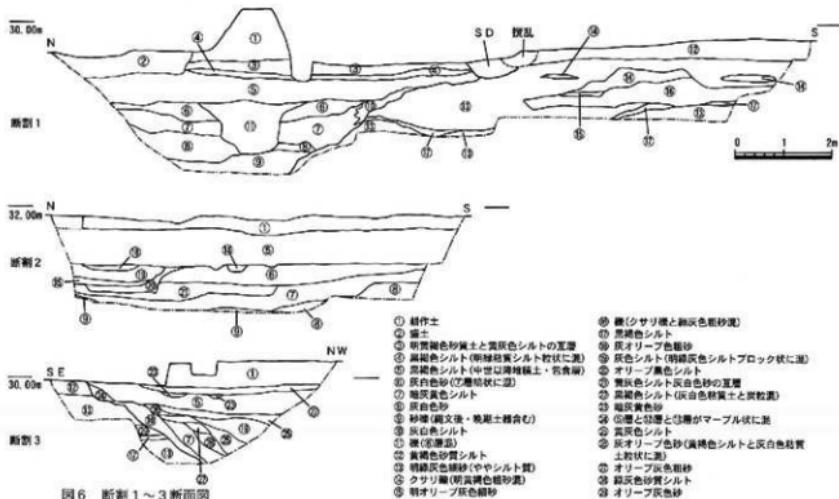
縄文時代の土器片は、中世などのより新しい遺物と混在するかたちで、遺構内や微高地を覆う中世以降堆積土の中から散発的に出土している。

- 3 まとめ**
- ①本調査区内においては、東側の微高地上で縄文時代の遺構は確認されなかった。
 - ②中世以降堆積土層の下に広がる谷状地形と微高地状地形の関係は、谷状地形が微高地状地形を切る（削る）かたちで存在することが判明した。
 - ③谷状地形は本調査区西端まで広がることが確認された。 (大野)



1～5(S K01)・6～10(S D24)・11～12(断面2)・13～20(包含層)

図5 出土遺物実測図



2 桜町遺跡（桜町前地区）

1 はじめに

今回の調査区は桜町遺跡の北端中央、昭和60年国道8号小矢部バイパス建設に先立ち調査を実施した中出地区とは南接する。また昭和61年と平成10年にも近隣で今回同様住宅建設に伴う調査を実施している。



図7 調査位置図
(1:5,000)

2 調査の概要

調査は平成11年度からの継続調査である。平成12年3月21日から1m×1.5m

のテストピットを14か所設定し、
人力掘削により調査を開始したが、
A1で溝(SD01)、J1で柱穴等
の遺構を検出したので3月31日で
いったん調査をうち切り、12年度
事業として4月21日からA区と溝
が続くと思われるG区、さらに柱
穴を確認したJ区と隣接するP区
を拡張する形で再開した。

基本層序はI層；黄灰色シルト(盛土)。II層；暗オリーブ褐色シルト。
III層；黒褐色シルト(遺物包含層)。
IV層；黒褐色シルト、III層よりや
や粘質である。V層；黒褐色粘質
シルト。VI層；灰黄褐色粘質シル
トである。

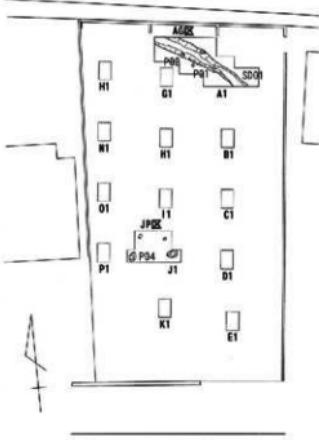


図8 調査区設定図(1:400)

遺構・遺物

確認した遺構はA・G区で溝1条(S D01)、柱穴4基(P01~P03ほか)、J・P区で柱穴4基(P04ほか)である。

S D01はVI層上面で灰黄褐色粘質シルト層に黒褐色粘質シルトが切り込む形で明確に確認することができた。しかし断面精査の結果、V層上面黒褐色粘質シルト層からやや砂っぽい黒褐色シルト層が切り込んでいることが確認できた。溝内からは土器がまとった形で出土した。この溝は平成10年に試掘調査で確認した溝に統くと考えられる。

柱穴と思われる穴は8基確認したが建物が立つまでには至らない。A・G区で確認した4基は、S D01との切り合い関係からより新しい時期である。P01~P03内からは土師器片が出土している。J・P区で確認したP04からは土師器及び須恵器の小片が出土している。

遺物はS D01から出土したもののが最も多く、そのほかは古墳時代から奈良時代の土師器、須恵器及び珠洲などがあるが、いずれも包含層からの出土で小破片が多い。

また、A・G区北側から打製石斧が2点出土している。

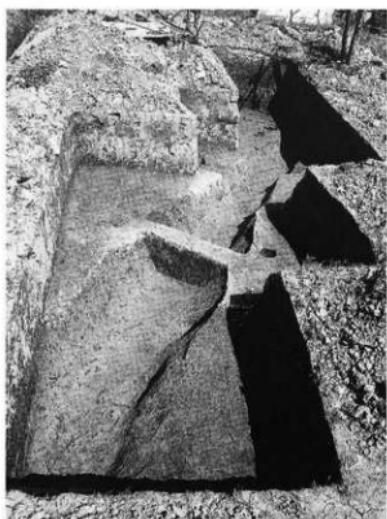


図10 A区全景(S D01)



図9 A区土層断面図(南北)

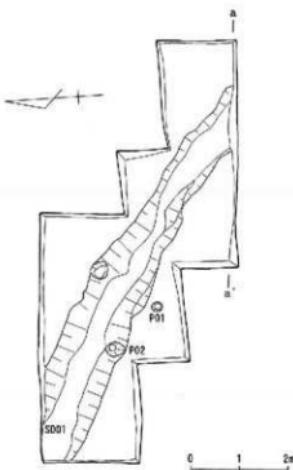
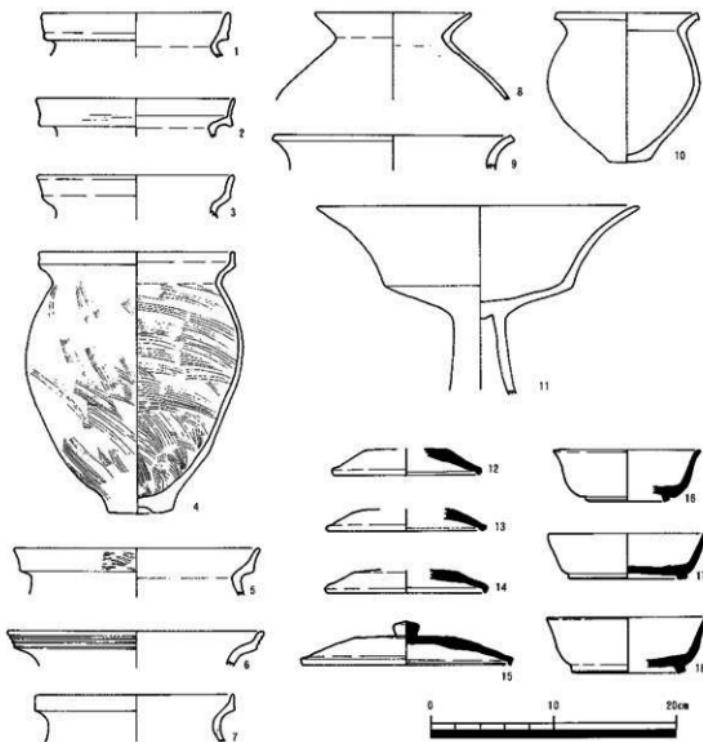


図11 A区造構平面図

3 まとめ SD01から出土した上器には甕、壺、高坏、器台などがある。いずれも器壁の摩耗が著しく、観察できるものは少ないが、有段口縁を持つものが含まれること。及びその外面に回線を巡らすものも見受けられことなどから、弥生時代終末期に相当すると考えられる(図12-1~11)。IV層からも若干この時期の土器が出土している。

包含層から出土した上師器には図示できなかったが、甕、高坏などがある。古墳時代から奈良時代のものであろう。

須恵器は図示したものほか、たちあがりのある坏身、内面にかえりを持つ坏蓋があり、6世紀末から8世紀前半代であろう(図12-12~18)。確認された柱穴もこの時期に相当すると考えられる。
(高木場)



1~11(SD01)・12~18(包含層)

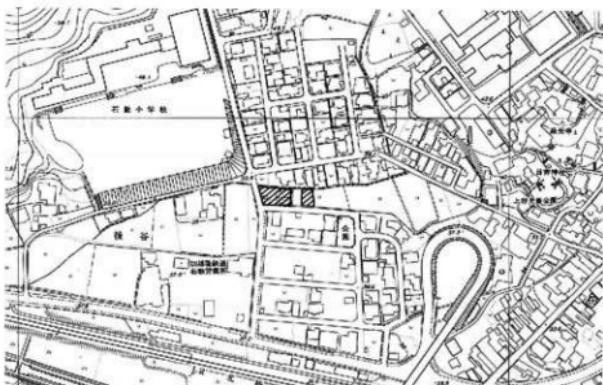
図12 出土遺物実測図

3 後谷条里遺跡

1 はじめに

後谷地区は中世の条里地割が残る地域として知られ、屯番割・中坪などの字名が残っている。平成4年富山県埋蔵文化財包蔵地図の作成に伴い後谷条里遺跡として周知化がはかられた。今回の調査は、個人住宅等の建設に先立ち実施したものである(I区)。この調査期間中に畑をはさんで西側の土地所有者の方から、将来の住宅等の建設に備えて発掘調査の依頼があり、あわせて実施することになった(II区)。

図13 調査位置図
(1 : 5,000)



2 調査の概要

I区は $1.5m \times 1m$ のテストピットを12ヶ所設定し人力により掘削した。A4・B4・C4については遺物の出土量が多く、特にC4においては土師器が数個体分かたまって出土したため、拡張し4トレンチとした。精査を繰り返したが遺構は確認できず、遺物を取り上げた後、さらに掘り下げて下層から川跡と思われる遺構を確認した。

基本層序はI層；暗灰色土(耕作土)。II層；灰色土。III層；茶褐色土。IV層；黒灰色土(やや粘質)。V層；暗青灰色砂質土、遺物(奈良時代)含む。VI層；黒灰色粘質土、遺物(弥生時代終末期)含む。VII層；暗緑灰色粘質土。VIII層；暗黒灰色粘質土である。

川跡は調査区西側を南北に流れていたようである。確認できたのは東側4mのみで西側は調査区外である。推定幅8m以上、深さ1.6m以上である。川の肩から川底に向かってなだれ込むように、土器が大量に出土した。

II区はすでに宅地化されており、約1.5mの盛土がされていたため $10m \times 4m$ のトレンチを設定し、重機による掘削を行った。遺構は確認できなかつたが、遺物はI区同様V層から奈良時代、VI層から弥生時代終末期の土器が出土した。

3 まとめ 調査で確認できた遺構は、川跡のみである。これに伴う遺物は弥生時代終末期のものである。図16-2の甕は口縁部内面に土器製作の過程でついた初圧痕がみられ、4の壺外面には龍目の跡がみられる。また、小破片で図示できなかつたが甕の肩部に刻目を施すものが2個体ある。

V層から数個体分まとまって出土した土師器には、甕、壺が4個体分以上、同じV層から出土した須恵器から7世紀後半から8世紀代が考えられる。今回は遺構を確認することはできなかつたがこの時期の遺構が存在するものと考えられる。

後谷条里遺跡は中世条里遺跡として知られてきたが、今回の調査で新たに奈良時代及び弥生時代終末期の包含層、遺構の存在が確認された。(高木場)

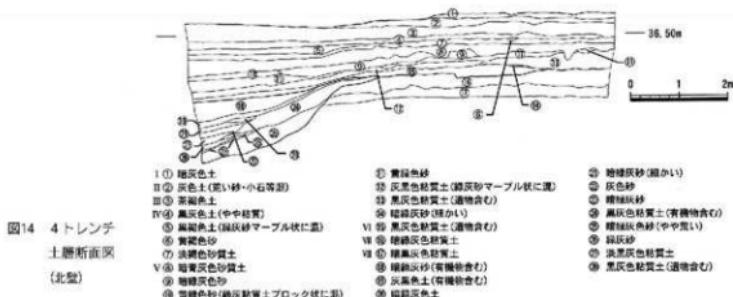


図14 4トレンド
土層断面図
(北壁)

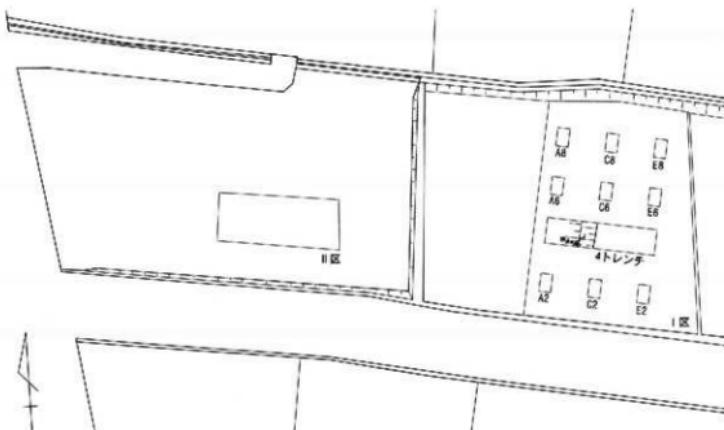
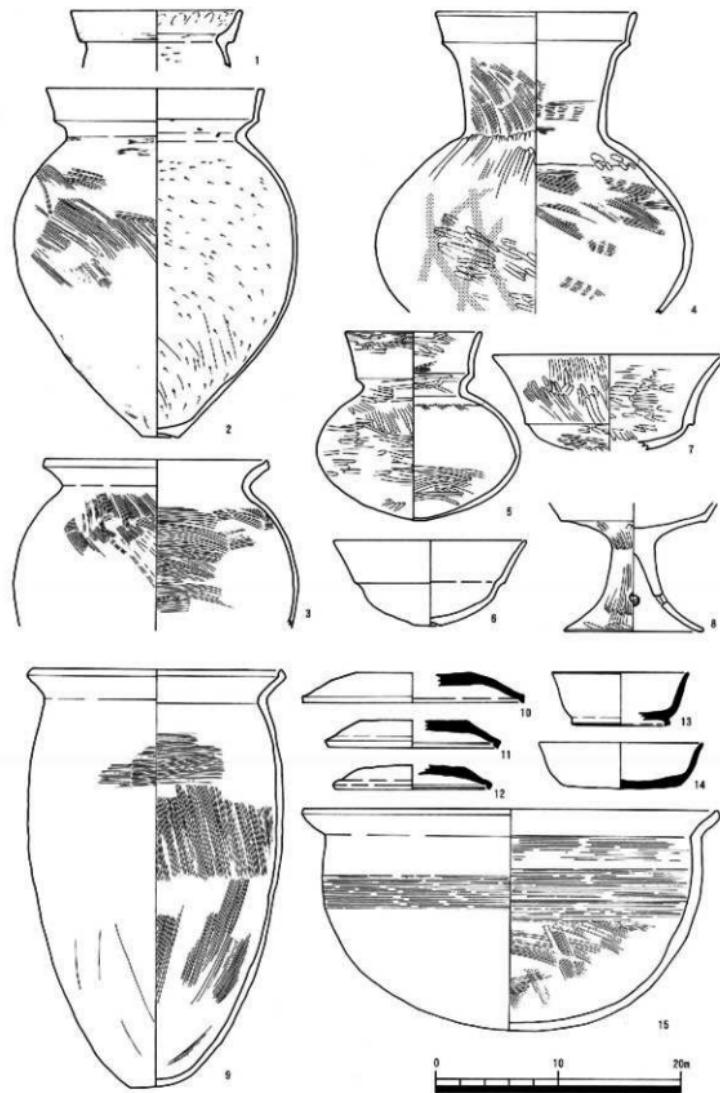


図15 調査区設定図 (1:400)



1~8(Ⅲ層)・9~15(Ⅴ層)

図16 出土遺物実測図

4 北 反 畠 遺 跡

1 はじめに

北反畠遺跡は、昭和55年分布調査により新たに発見された遺跡で、当初は奈良時代から中世にかけての遺跡と考えられていた。また、石清水八幡宮の所領「埴生保」の一部にも比定されている。昭和62年から平成2年にかけて遺跡東端の綾子地区において土地区画整理事業に伴う発掘調査が行われ、新たに古墳時代の集落が確認された。さらに南北に方位をとる地割遺構が確認され、市内に残る南北方位の地割が12世紀後半以降、中世莊園開発との関わりの中でとらえるべきものであることが明らかにされた遺跡である。今回の調査は遺跡中央西よりに当たり、バチンコ店駐場の造成に伴うもので、平成元年及び平成5年に隣接地の調査をしている。



図17 調査位置図
(1 : 5,000)

2 調査概要

調査は2m×4mのテストピットを20ヶ所設定し人力により掘削した。その結果、何カ所かで遺構・遺物の密集する部分が確認されたため、重機により拡張した。

基本層序はI層；灰褐色土（耕作土）。II層；明黄褐色シルト。III層；黒褐色シルト（古墳時代遺物包含層）。IV層；黒灰色シルト。V層；暗青灰色砂質土。VI層；暗青灰色砂質土（荒い砂含む）である。遺構はIV層上面から切り込むが、一部III層から切り込むものもある。遺物はII層及びIII層から出土するが、III層からの出土が圧倒的に多い。

遺構・遺物

確認した遺構は柱穴17基以上、溝16条、土坑3基である。柱穴は内15基に柱根が残っており、H 5・6、I 5・6で検出した7基(P 5・6・10~14)については掘立柱建物の柱と思われる。II14・15で検出した7基は杭あるいは柵列かと考えられる。SD11は土器がびっしりつまつた状態で検出された。SD08

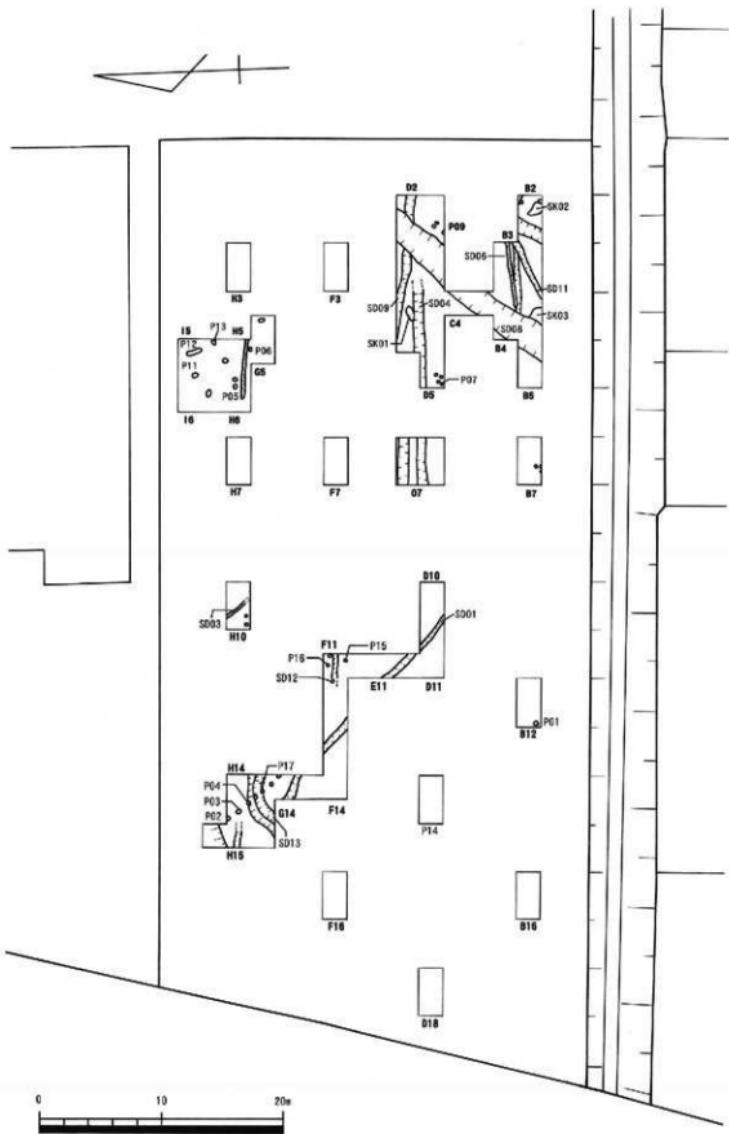


図18 調査区設定図

はⅢ層上面から切り込んでおり、またSD09・10との切り合いからもより新しいと考えられる。溝内からは土師器の無台椀、有台椀が出土している。遺物はSD11をのぞいて遺構からの出土は少なく、包含層からの出土が多い。また遺物のほとんどは内面に黒色処理を施した土師器(椀・高坏)で占められ、ほかに甕、瓶、須恵器(坏身・蓋・提瓶)が若干含まれる。

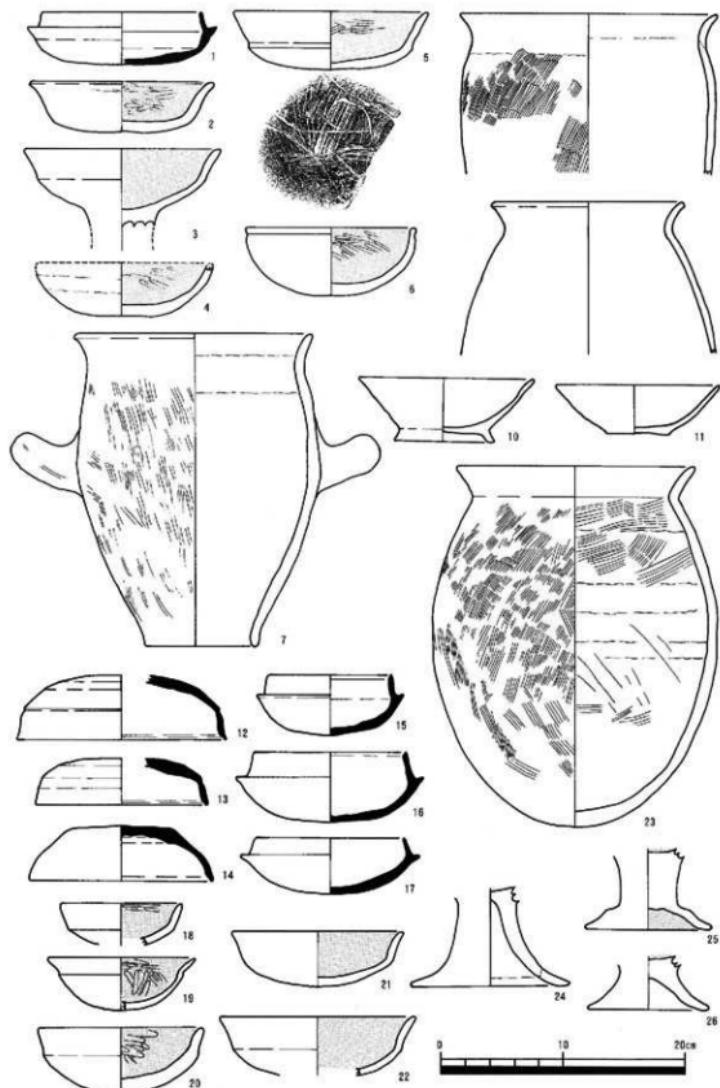
3 まとめ 出土した遺物の大半を占める内黒土器の椀及び高坏の坏部は、大きく3タイプに分けられる。①口縁部が外反し、底部との境に稜線をもつもの。②底部から口縁部が緩やかに外反するもの。③口縁がやや内湾し半球形のものである。このうち①のタイプが最も出土量が多い。また図21-5の底部にはヘラ描きがみられる。これらはともに出土した須恵器から6世紀代に相当し、土地区画整理事業に伴う調査で確認された古墳時代の集落と年代観も一致する。確認した遺構についてもほぼこの時期に相当すると思われるが、前述したようにSD08は他の遺構との切り合い関係からより新しく、出土した遺物(図21-10・11)から平安時代と考える。また、今回の調査では中世の遺物ではなく、ほぼ南北方位をとる中世の条里地割りも確定できなかった。
(高木場)

図19 SD11全景
(西から)



図20 SD11遺物
出土状況
(西から)





■は内面黒色土器 1~7(SD11)・8(SD04)・9(SD10)・10,11(SD08)・12~26(包含層)

図21 出土遺物実測図

参考文献

- ・1980 小矢部市教育委員会 『富山県小矢部市 桜町遺跡調査概報』
- ・1982 小矢部市教育委員会 『富山県小矢部市 桜町遺跡(古苗代・鷺場地区)』
- ・1983 小矢部市教育委員会 『富山県小矢部市 桜町遺跡(産田地区)』
- ・1984 小矢部市教育委員会 『富山県小矢部市 桜町遺跡 一城山都市下水路新設工事に伴う産田地区的調査—』
- ・1985 小矢部市教育委員会 『富山県小矢部市 桜町遺跡 一産田地区発掘調査概報—』
- ・1987 小矢部市教育委員会 『富山県小矢部市 桜町遺跡 一個人住宅の建設に伴う中出地区の調査—』
- ・1990 小矢部市教育委員会 『富山県小矢部市 桜町遺跡 一舟岡地区の重要遺跡確認緊急調査—』
- ・1981 小矢部市埋蔵文化財分布調査団 『小矢部市埋蔵文化財分布調査概報Ⅰ』
- ・1983 石川考古学研究会 『東大寺領横江庄遺跡』
- ・1986 石川考古学研究会 『シンポジウム「月影式」上器について 報告編・資料編』
- ・1986 石川県立埋蔵文化財センター 『漆町遺跡Ⅰ』
- ・1988 石川県立埋蔵文化財センター 『寺家遺跡発掘調査報告Ⅱ』
- ・1989 小矢部市教育委員会 『富山県小矢部市 北反戻遺跡 一条里遺構の発掘調査—』
- ・1991 小矢部市教育委員会 『富山県小矢部市 北反戻遺跡 一古墳時代集落の発掘調査概要—』
- ・1984 小矢部市教育委員会 『平成5年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報』
- ・1994 吉岡康暢 『中世須恵器の研究』
- ・1998 (財)富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所 『五社遺跡発掘調査報告 一能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告—』

報告書抄録

ふりがな	ふりがな						
書名	平成12年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報						
シリーズ名・番号	小矢部市埋蔵文化財調査報告書第49冊						
編著者名	大野 淳也 高木場 万里						
編集機関	小矢部市教育委員会						
所在地	〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号 TEL.0766-67-1760						
発行年月日	西暦2001年3月30日						
ふりがな 所収遺跡名	しょざいち 所 在 地	コ ー ド	北緯	東經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
さくらまちの せき 桜町遺跡 (第11調査区)	とやま県小矢部市 さくらまちの せき 桜町字舟岡	16209 021	36°41'11"	136°52'24"	20000508 ~ 20000922	1,473 m ²	遺跡全休像 把握のため の確認調査
さくらまちの せき 桜町遺跡 (桜町前地区)	とやま県小矢部市西中野 さくらまちの せき 宇桜町前1212-8	16209 021	36°41'11"	136°52'35"	20000421 ~ 20000511	402.38 m ²	個人住宅 建設等
うしなじょうの せき 後谷条里遺跡	とやま県小矢部市 あさひやじょうり 字毫割剣831外	16209 184	36°40'12"	136°51'45"	20000512 ~ 20000526	260 m ²	個人住宅 建設等
きたたん せ い せき 北反畝遺跡	とやま県小矢部市 北反畝390-1外	16209 040	36°39'44"	136°51'35"	20000714 ~ 20000831	2,641 m ²	駐車場造 成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
桜町遺跡 (第11調査区)	集落跡	縄文・古墳 古代・中世	中世柱穴、溝、 窪穴状遺構	縄文土器・土師器 中世土師器・珠洲			
桜町遺跡 (桜町前地区)	集落跡	弥生終末・ 古墳・奈良 中世	溝(弥生終末) ピット	弥生土器・須恵器 ・土師器・珠洲			
後谷条里遺跡	散布地	弥生終末 ・奈良	川跡(弥生終末)	弥生土器・須恵器 ・土師器			
北反畝遺跡	集落跡	古墳・平安	溝16条・土坑3基・ 柱穴17以上	須恵器・土師器 ・内黒土師器			

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第49冊

平成12年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

発行日 2001年3月30日

編集・発行 小矢部市教育委員会

(〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号)

TEL 0766-67-1760

印 刷 株式会社 アヤト

